

## プレスリリース

### 杉謙太郎 個展『器も花のうち』

2024年1月13日（土） - 2月17日（土）

東京画廊+BTAP | 東京

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第四秀和ビル 7階

TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

東京画廊+BTAP では1月13日（土）より、杉謙太郎による「器も花のうち」展を開催致します。

この展覧会は弊ギャラリーが「現代における表現」をテーマに近代以前から日本人の美の感性を継承してきた「陶」や「書」そして「花」のシリーズ展の1つになります。

花の表現では今までに 2002年の岡田幸三氏の個展と 2022年の池坊由紀氏の「花をアートへ」展を企画しました。

古代から花は存在しましたが、「いけばな」が成立したのは室町時代の後期八代将軍、足利義政による東山文化の頃と言われています。その後江戸時代に池坊 2代専好の活躍によって盛んになりますが、明治の近代化のなかで「いけばな」は花道家の表現から、一般人の習い事を中心とした組織へと変わります。そのために国は「いけばな」を芸術とは認めず、東京藝術大学をはじめとした他の美術学校でも「書」と同様に教えられることはありませんでした。

1960年代に芸術の各分野に広がった「前衛」から、勅使河原蒼風らが「前衛いけばな運動」を起こしましたが、中川幸夫だけがその道を発展継承しました。新しいミレニアムに入るとアートの表現もグローバル化によって多様となり、「いけばな」の世界にも孤立して活躍する花道家が現れます。

18歳で花の道を志した杉氏もその一人です。杉氏は福岡県の薔薇農家に生まれ、10代で華道家元池坊の花を学びます。その後、日本を離れヨーロッパを巡り、帰国後は原田耕三氏に師事しました。

華道家元池坊の古典立花研究者、岡田幸三氏から原田耕三氏へと受け継がれた古典の立花を中心とした「いけばな」を学び、2013年から国内外を問わず幾多の花会を重ね、花による現代の表現を模索してきました。

本展では、器あってこそ成り立つ「いけばな」の本源に戻り、近・新作を展示します。

杉氏の表現は「いけばな」における器の意味をどのように見立てたのでしょうか。

杉氏は花材を探すと時と同様に、近隣の山々を日々歩き回り、自ら様々な原土を集めています。また、この土の造形作品は、花が生まれ出る種子を象徴するものであり、短い花の命を映す碗(花器)として、コロナ禍に見舞われた2019年～2023年に制作されました。杉氏はそれを「花実(かじつ)」と名付けました。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

花実 かじつ

杉謙太郎

花びらは種子を宿すために、受信機として存在している。

花は送粉者(蜜蜂)の羽音をキャッチし、甘い蜜をにじませる。つまり、蜂の羽音と共振しているというのだ。しかも、それは蜂や蝶などの特定の送粉者に対してのみで、すべての音に反応しているわけではない。とすると花は、きき耳をたてているともいえる。

もし、花びらが何者かによって千切り取られたならば、蜜蜂の囁きは届かず、蜜の糖度もあがらないのだ。

同時に花は、美しい言葉を紡ぎだす口を持っている。

蜜蜂の囁きを聞いて、花自体も何らかの声を発している。

それが花の匂いであるかもしれない。

調香師が表現する香りとは、花が発する声であり、いいかえれば「花の声」を詩のように詠んでいるのだ。それが香りを「聞く」という行為つまり、聞香の世界であり、香道として道となった。

野にある草木にも、そして石ころにでさえ息吹きがあり、情を持っている。

花の中に自ずからなる息を観る、そしてそれを認めた時、日本にいけばなが生まれ、そして「花道」として、まことの自由を得た。

花が媒体としての役目を果たせば、おのずから散り落ちる、そののちに密かに種子は宿る。種子は硬い殻のような容器に守られて、命をつないでいる。

花は、受信機であるから耳のように外に開かれているが、種子は守るために内へと閉じている。

近代の花は外へ外へと意識をはたらかせてきた。色や形といった、眼に見える姿にのみ反応してきたともいえる。そこで、自然の循環は閉ざされてしまった。

今、この種子のような花器にどんな花をいれようか。

縄文人が生涯を共にした犬の墓に、一つの土器が置かれていたそう。その中から花の花粉が見つかったという。

この花器ができた時から私は、ものの姿のうちにあるように、花の心のみをいけてみたいと挑んできた。それは、中世のイケバナではなく、古代のハナといえるのかもしれない。

散り落ちた花びらが中に入れられる時、本来のハナの循環を取り戻すことができるだろうか。

花実の形をした真理の実、それは短い花の命を映す碗なのだ。



<花実> (2019-23) 陶器

プレス問い合わせ e-mail: [info@tokyo-gallery.com](mailto:info@tokyo-gallery.com)

開廊時間 | (火-土) 12:00-18:00

休廊日 | 日、月、祝

東京画廊 + BTAP | 東京

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第4 秀和ビル 7階

TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

[www.tokyo-gallery.com](http://www.tokyo-gallery.com)